

地域魅力向上・発信事業計画に基づく事業計画書

1. 基本情報

自治体名	他市町村との連携	事業番号	事業名			
檜葉町	なし	A-3	檜葉町 PR コンテンツ制作事業			
事業実施年度	当該年度総事業費	経費区分（該当区分に○を入力）				
R8 年度	45,694 千円	①情報発信事業			②外部人材活用	
事業費	左記 事業費のうち 国費負担分	i 風評動向調査	ii 体験等企画実施	iii 情報発信コンテンツ 作成	i 企画立案のための外 部人材の活用	ii 地域の語り部の育成
4,950 千円	2,475 千円			○		

2. 風評等の現状や課題、これまでの取組

自治体が抱える風評等の現状について
東日本大震災の発災から 15 年が経過し、町は復旧・復興から創生へとフェーズが変化してきた。しかしながら、県外や海外においては、いまだに「被災地」や「原発事故」といったイメージが強く残っており、地域の現在の姿や、人々の暮らし、自然環境、文化、営みについて十分に認識されているとは言い難い状況にある。 一方で、当町には、美しい海や山の風景、四季とともにある暮らし、地域に根ざした文化、人と人との関係性など、震災以前から積み重ねられてきた固有の魅力が存在している。また、震災を経験した地域だからこそ生まれている、新たな挑戦や、未来へ向かう営みも存在している。 しかし、そのような豊かな自然環境とともに共生してきた暮らしや、その中で育んできた文化と人の思いについては、全国には十分に伝わっておらず、特に海外においては、原子力災害に起因するネガティブな印象や、安全性に対する不安が現在も残っている。その結果、実際の地域の姿が伝わっておらず、現実とイメージとの乖離が生じている。その状況下で、本町を訪れようというモチベーションは生まれておらず、現実の本町の姿を知ってもらう機会も喪失してしまうという負のスパイラルに陥っている。 そのため、復興から創生に向けていくにあたって、復興の取組や食品等の安全性に関する情報のみならず、地域に流れる時間や暮らし、人々の営み、自然との関係性といった、檜葉町が本来持つ魅力や現在の姿を、国内外へと発信していくことが重要な課題となっている。
上記の現状の原因となる課題について
発災以降、福島に関する情報発信は、「震災」や「原発事故」という文脈の上で伝えられることが多く、現在の地域の姿や、人々の暮らし、自然、文化といった日常の風景が十分に伝わっていない状況にある。復興に関する情報発信が継続的に行われているものの、どういう自然環境の中でどのような文化を育んできたのか、その中で人々が営んできた暮らしといった、地域の空気感や時間の流れのような、感覚を伴う部分までは十分に伝わっていない側面がある。 特に県外や海外においては、地域の現状を直接体験する機会が限られているために、過去の印象や断片的な情報によって地域認識が形成されやすい。その結果、現在の檜葉町の姿や、食品等の安全性、自然環境、人々の営みなどに関する理解が十分に進んでいない。特に町単体での外国人向けの情報発信はほぼ皆無の状況である。 さらに、従来型の観光 PR や行政広報のみでは、若年層や都市部、海外の感度の高い層に対して継続的に情報を届けることが難しく、「自分自身の暮らしや価値観と接続する場所」と

して認識してもらうための発信が不足している。 そのため、単なる観光情報や復興状況の発信ではなく、さまざまな言語で実際に地域を歩き、人と出会い、その土地の空気や時間に触れるような体験を伴った情報発信を通して、地域の多層的な魅力や現在の姿を丁寧に伝えていくことが必要となっている。
上記の課題に対するこれまでの自治体の取組について（自治体独自の取組を含む） 町の情報発信事業や移住定住事業等を活用した外向けの情報発信。 本交付金を活用した「アウトドアコンテンツを軸とした檜葉の魅力体感・発信事業」においては、首都圏等県外の方々への町の魅力である川や海、山などの自然環境 P R や観光客入込数の増加等を目的に、アドベンチャーレースを開催した。
上記の取組における成果について 風評払拭・風化防止の点や町の魅力発信の点においても一定の成果はでており、県内町内への来訪者は、年々回復している。 しかしながら、震災後から取り組んできている、町の豊かな自然を体験してもらえるアウトドアコンテンツやアクティビティを軸として町内の良さを知ってもらうには、町の魅力を感じ、知って実際に来てもらうことが一番であるが、ネガティブなイメージが先行し、特に外国人向けの情報発信はまだまだ課題が残っている状況である。

3. 事業内容の詳細

今年度の具体的な取組内容 ※以下の項目に沿って記載をお願い致します。
1. 檜葉町 PR コンテンツ制作事業 ①実施期間：令和 8 年 7 月～令和 9 年 1 月 ②実施体制：単独 ③実施場所：福島県檜葉町 ④概算費用： 4,950 千円 ⑤実施内容：各地のユニークな自然や文化を見いだし、新たな価値を創造するメディア「PAPERSKY」と連携し、檜葉町の自然・文化・暮らし・復興に向けた取り組みを国内外へ発信する。具体的には、Web メディア「PAPERSKY Japan Stories」での記事掲載、雑誌『PAPERSKY』での特集掲載、プロモーションムービー制作・公開、SNS 等を活用した情報発信、パンフレット制作を、多言語にて実施する。その際、地域を実際に歩き、人と出会い、土地の空気を感じる体験型取材を通して、単なる観光情報ではなく、檜葉町の本質的な魅力や現在の姿を発信する。特に、今年のナショナルサイクルルート認定を見据え、インバウンド向け（台湾、中国等）に町を紹介できるコンテンツを作成する。 ⑥「復興・創生に向けた取組や食品等の安全性等の情報」の具体的な発信内容：町内の海や里山、生活風景など、現在の自然環境や暮らしの様子を実際の風景とともに伝えることで、地域の現状や日常を体感的に発信する。食品等の安全性に関する情報についても、地域の食文化や営みと切り離して説明するのではなく、実際に地域で暮らし、食べ、働いている人々の姿とともに紹介することで、現在の檜葉町の温度感とともに伝えていく。さらに、サイクリングやまち歩きなど、実際に地域を巡りながら人々や風景と出会う体験を通して、復興

が単なるインフラ整備ではなく、人々の営みや関係性の中で続いているものであることを追体験できるようなコンテンツを発信する。

⑦「地域の魅力に関する情報」の具体的な発信内容：太平洋を望む公園や、木戸川の自然環境、四季によって変化する里山の風景など、檜葉町ならではの自然の魅力を、そこで暮らす人々や訪れている人々と共に取り上げる。加えて、サイクリングやトレイル、まち歩きなど、「地域を歩く体験」を通して、その土地の空気や時間を感じられるコンテンツを制作することで、単なる観光地紹介ではなく、「自分ならこの町でどのように過ごすだろうか」と想像できるような内容の発信に取り組む。また、地域で新たな挑戦を続ける人々や、自然とともに暮らす人々の姿を紹介することで、「被災地」という一面的なイメージではなく、未来へ向かって営みを続ける地域としての多層的な檜葉町像を多言語で発信する。

4. 事業における目標等

今年度におけるアウトプット ※定量的な目標に限る	今年度におけるアウトカム ※定量的な目標に限る
(動画・紙媒体等のコンテンツ作成) ・アジア圏に向けて発信力がある媒体とのコラボを行い、インバウンド向けの動画や紙媒体の作成と発信を行う。現状、インバウンド向けコンテンツが 0 であるが、本事業実施により 1 以上となる。	本町に興味や関心が無い方にも、発信力がある媒体とコラボを通じて発信することで、本町の復興の様子や純粋な魅力を広い世代や全国、海外の方々に知ってもらうことができる。 町への交流人口拡大として、観光客入込数 1,000,000 人を目標とする。
長期的な目標 ※1 つ以上は定量的な目標を設定	長期的な目標の現在の進捗状況 ※達成度合いも記載 (○%)
(動画・紙媒体等のコンテンツ作成) 観光客入込数やインバウンド数の増加、海外からの動画リーチ数の獲得を狙う。 観光客入込数：1,000,000 人	観光客入込数：859,336 人 (86%)